

## 第2回江南市総合計画審議会 議事要旨

日 時 平成29年2月8日(水) 14:00~16:00

会 場 江南市役所 第2委員会室

出席者 出席委員20名

### ■委員

《会長》	奥野 信宏	梅村学園・中京大学 理事・学術顧問
《会長代理》	松尾 昌之	市民会議代表《第2分科会・会長》
	木内 清美	愛知江南短期大学こども健康学科長
	佐々木 直	修文大学名誉教授
	高橋 政稔	名城大学理工学部教授
	尾関 昭	市議会議員
	掛布 まち子	市議会議員
	古池 勝英	市議会議員
	安達 秀正	愛知北農業協同組合組合長
	大谷 元	江南金融協会会長
	楓 健年	江南市環境審議会会長
	後藤 雅臣	江南市消防団団長
	梶村 徹師	古知野区区長
	松永 金次郎	江南商工会議所会頭
	陸浦 歳之	江南市社会福祉協議会会長
	加藤 幸治	市民会議代表《第1分科会・会長》
	宮川 秀男	市民会議代表《第1分科会・副会長》
	岩根 佐代子	市民会議代表《第2分科会・副会長》
	柴田 広美	市民会議代表《第3分科会・会長》
	早瀬 裕子	市民会議代表《第3分科会・副会長》

■傍聴者 なし

### ◆議題

- (1) 第1回江南市総合計画審議会の主な委員意見について
- (2) 第6次江南市総合計画 基本構想(案)について
- (3) その他

#### <配付資料>

- 資料1 第1回江南市総合計画審議会 主な委員意見について
- 資料2 第6次江南市総合計画 策定方針
- 資料3 第6次江南市総合計画 基本構想(案)
- 資料4 江南市戦略計画と第6次江南市総合計画の主な変更点について

## ◆会議結果

### 1 開会

事務局より挨拶。

### 2 議題

#### (1) 第1回江南市総合計画審議会の主な委員意見について

(会 長) 議題1の第1回江南市総合計画審議会の主な委員意見について、事務局より説明をお願いします。

(事 務 局) ~資料1及び資料4について事務局より説明~

(会 長) 前回の審議会での委員意見への対応結果についてご説明いただきました。何かありましたらお気づきのときにお伝えください。

#### (2) 第6次江南市総合計画 基本構想(案)について

(会 長) 議題2の第6次江南市総合計画 基本構想(案)について、事務局より説明をお願いします。

(事 務 局) ~資料3について事務局より説明~

(会 長) 本日は基本構想の内容について検討して、具体的な計画については次回となります。全体的によく書けていると思いますが、深刻化する人口減少や高齢化について江南市ではどのように立ち向かうか、どこで特徴づけるか、そのあたりも含めてご意見をいただきたいと思います。

(委 員) 資料2について、1ページ目の中ほどに“今年度”とあるが、平成〇年度とした方がよい。また、4ページの文章に句読点をつけた方がよい。資料3の7ページの高齢化率についても、平成27年の国勢調査結果が公表されているので、数値を最新版に差換えた方がよい。

(事 務 局) いただいたご意見を踏まえて資料を修正します。7ページの高齢化率につきましては、直近で26.5%という数字が出ておりますので、こちらの数値に置き換えます。

(委 員) 資料3の15ページで、約77%が「大変住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と回答しているが、理由について分析しているか。この理由が一番大切であり、すべてにつながってくる。

(会 長) 事務局の方で、現時点で把握していればお願いします。

(事 務 局) 同アンケートのなかで、江南市のどのあたりに魅力を感じるかという設問を入れており、「名古屋の都心に近い」「災害に強い」「自然が豊か」などが上位にあがっています。

(委 員) 江南市の現状は住みやすいことは理解できたが、なぜ、人口は減少していくのか。

(事 務 局) 所感になりますが、私は扶桑町出身ですが、ここ10年の間に、市街化区域では、農家で世代変わりし、農地が宅地化されアパートや分譲マンションが増えてきました。そのため、地区では流入人口が増加しています。江南市では随分前から宅地化が進んでいますが、扶桑町ではここ5~10年間くらいの間に進んできているように感じます。

(委 員) 名鉄沿線で住みやすいという意見もあるが、もう少し住みやすくなる方法がないか。例えば布袋駅が始発駅になると、通勤が便利になり外部からの流入も見込める。何もせずにただ人口が減少するのを待つのではなく、そういったところを努力するなど総合的に考えていく必要がある。

(事 務 局) 交通に関するご意見については、J Aや商工会所からもバスの乗り入れなどのご要望も承っておりますので、基本計画以降に反映していけたらと考えています。

(会 長) 江南市は、ある程度発展を遂げているが、次の発展段階でどうしていくかが重要である。首都圏では、あるUR団地において、子育て環境整備を徹底的に行った結果、出生率が2以上にあがったという事例がある。

どの自治体でも子育て支援策をいくつも実施しているが、それだけでは出生率は伸びない。「子どもの生まれるまちをつくる」ことが大切であり、江南市でも子育て支援を徹底的に行い、ただ保育園を増やすではなく、駅近や駅直結につくるなどきめ細やかな対応ができればよいのではないか。

国では良い事例をピックアップしている段階なので、ぜひ江南市が名乗りをあげられるように頑張ってもらいたい。

(委員) 資料3の25ページに、平成39年度目標人口が95,100人とあるが、これは総合戦略で定めた数値がそのままきているのか。平成27年以降減少しているが、これは子育て支援等の施策を行わなかった場合の推計値なのか。

(事務局) 人口フレームは人口ビジョンから抽出しており、総合戦略で施策展開した結果として目指す希望的な数値になります。何も対策しない場合、国立社会保障・人口問題研究所が出す推計値は93,000人程度となっていますので、施策展開によって2,000人程増加すると見込み、上方修正しています。

(委員) 子育て環境や雇用環境、土地利用等の問題があるが、これらを受けて、基本計画の中に分野別の計画が入ってくるという理解でよいか。

(事務局) そのとおりです。

(委員) 今回新たに「4章 市民協働のあり方」が加わった。社会福祉協議会として、地域福祉計画の策定に携わっており、介護保険など社会保障について持続可能な政策となるよう検討しているところだが、地域福祉、地域での支え合いは非常に重要となっている。地域福祉についても基本構想の中に言葉として盛り込んでほしい。

(事務局) 地域福祉については、基本構想の中でどのような表現ができるか工夫させていただければと思います。

(会長) 資料3の20ページの「市民協働の基本方針」に“人材育成”とあるが、最近の話題をいくつか紹介させていただきたい。1つ目は、内閣府でも推進している最中であるが、行政、民間、NPOの人事交流が行われている。NPOから企業に派遣されることで、企業がNPOの考え方を取り入れることができるようになった。政府についても、昨年1月からNPOとの人事交流が出来るようになっている。

2つ目は、人材育成をする中間支援組織を育てることが挙げられる。地域の空き家、空きビルのフロアの活用に関する人材育成で、北九州の事例では全国から人材を集めて育成しており、ここでトレーニングを受けた方は全国で活躍している。

3つ目は、人材育成として大学院の教育を受けて学位をとってもらおうといったことも挙げられる。

4つ目は、NPOの信頼性を増す取組も求められている。各NPOが自らを評価して情報発信するという仕組みをつくっている段階である。

5つ目は、日本の銀行口座では毎年1千億円以上、所有者不明のお金が出ている。これは銀行の収入になっているので、それを、何とかしようという懸案があり、この前の臨時国会でようやく通った。使い道については今後の検討事項になるが、各県の中間支援組織はこれに興味を示しており、今後勉強会等も行われる予定である。

ぜひ基本計画の中で、具体的な検討をしていただきたい。

(委員) 資料2の4ページの「④住民説明会の開催」に、“新総合計画”や“新計画”という表記があるが、曖昧な言葉を用いるよりも“第6次”を入れた方が明確でわかりやすい。

5ページに“他市比較”とあるが、“他市町比較”の方が良い。

1ページに“平成23年の地方自治法の改正”とあるが、3ページでは“平成23年8月の地方自治改正”とあるので、1ページにも“8月”を追加した方が良いのではないかと。

(事務局) そのように修正したいと思います。

(委員) 審議会の委員には、市外に住んでいる方もおられると思う。広報こうなんには、市の行事や議会の動きなど様々な情報が入っているので、ぜひ市外にお住いの委員にも送付してほしい。

(事務局) デジタル広報もありますので、郵送とどちらがよいか個別に対応します。

(委員) 資料3の12ページの人口動向で“減少に転じています”とあるが、中心市街地の空洞化により減少しているのかなど、どの地域で減っているのかが具体的にわかると良い。これに関連して、13ページでは“宅地の割合が高い”とあるが、特に郊外で宅地化が進んでいるため、そこでは人口が増えているが中心市街地の人口は減っているなど、具体的なイメージが必要である。

(事務局) 宅地化の分布につきましては、別途再配置計画を検討している中で過去5年の情報を

GIS で整理しています。これをみると、市街化区域、市街化調整区域に問わず、まんべんなく分布している状況ですが、集落地区の方が人口減少の幅が大きいと感じているところではあります。

(委員) 資料3の8ページに“都市機能の集約化”とある。公共施設再配置計画も同時進行で進んでいるが、必要な都市機能の集約化と言いつつ、土地利用の方針があまりはっきりしていない。これ以上の市街化区域の拡大は人口減少を踏まえできる限りしないようにして市街化区域の空洞化を防ぐために魅力化を図るのか、公共交通のネットワーク化なのか、江南市全体を開発していくのかなど、“都市機能の集約化”と書いてある一方で、本当にそういった方針を貫いているのかははっきりしない部分がある。もう少し説明してほしい。

(事務局) 土地利用につきましては、次回に図面等をお示ししながら説明させていただきたいと考えています。

(会長) コンパクト化の考え方は専門家によってそれぞれであり、国土交通省の委員会では考え方として、「アジサイ型」と「団子の串型」の2つにまとめた。

「アジサイ型」は、一つの花弁が人口1,000人から5,000人程度を1つの単位として考えてそれぞれに一次的な生活支援機能を集約させ、中心部の花弁には二次、三次の機能を集約するイメージである。「団子の串型」は、鉄道が機能しているまちである。

国では色々な施策を打っており、中心部の空き家等の対策を行ったり、中心部に物販や病院がある場合には補助金を出したりするなどしている。また、郊外における団地やマンションの立地について、地方都市では極力抑制するといった格好で国の方では進めている。

(委員) 資料3の19ページで“コンパクトシティ構想”とあるが、一方で7ページでは“コンパクト・プラス・ネットワーク”とある。コンパクトシティ構想とは、国交省の誘導政策であり、モデル都市は中核市を対象に人口が30万人程度を考えているので、江南市での適用には少し違和感がある。近代都市の都市計画で「近隣住区」という考え方があるが、これは小学校区で人口1万人程度の単位であり、江南市も10万人で小学校10校である。

今後、人口減少していくことを考えると、公共施設の再配置を同時に考えていかないといけないが、“コンパクトシティ構想”という言葉が江南市で使うべきかどうか。“コンパクト・プラス・ネットワーク”に統一しても良いのではないかと。

(会長) “コンパクトシティ構想”は昔からある言葉であり、あまりにも人口が分散したまちで用いる表現であることをご理解いただきたい。

(委員) 江南市において、コンパクトシティがあてはまるかどうか、拡散した人口を中心地に集めることはできるかどうか、そのあたりも考えて進めていく必要がある。

(会長) 国の会議でも様々なアイデアが出ているが、提案しなければならないと考えているのは居住の集約化についてである。単に線を引くということではなく、集落を考えた「コンパクト・プラス・ネットワーク」がまさに必要なのである。

委員のおっしゃることはもっともであり、それを目指して頑張ろうというところであるが、なかなか上手く進んでいないのが現状である。

(委員) 基本構想の感想として、現状について上手くまとめられているが、何をするのかといった点が見えてこない。

資料3の19ページに「コンパクトシティ構想」とあるが、直近で考えた時のコンパクトシティをどう捉えるか、要するに市街化拡大を防ぎ、中心部に機能集約して持続可能な都市にしていくということなのだと言葉としては理解できるが、実際にどこを中心にして何を集約するのがわからない。これからどうするのが見えてくると良い。

(会長) 次回、基本計画について議論することになっているので、その辺りが明らかになると期待している。

(事務局) コンパクトシティにつきましては、江南市の面積を考えると既にコンパクトシティであり、そこからさらにコンパクト化するためには何をすればよいかといった議論をさせていただいています。

最終的には、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現に向けて進めさせていただ

こうと考えております。皆様からいただいたご意見を踏まえ、今後しっかり進めていきたいと思っております。

(会 長) 国の方で「コンパクト・プラス・ネットワーク」を出した際、北海道でそんなことが実現できるかとお叱りをいただいたが、今年度まちづくり大賞を受賞したのは富良野のコンパクトシティ化である。

地方で“コンパクトシティ化”というと中心部と切り離されるようなイメージをもたれて警戒心が強くなる傾向があるが、そういった計画ではないということにご理解いただきたい。

(委 員) 今回は基本構想であり、おそらく都市マスタープランの方で計画されると思うので、そちらでもしっかりと検討してほしい。

(委 員) 基本構想は、読みやすい内容になっているが、人口減少といってもどこの地区が減少しているかなど、もう少し細かな分析をしたうえで計画を立てていく必要がある。

愛知江南短期大学の中に子育て支援センターがあるが、駐車場や学食などがあるためか、利用者が非常に多い。細かく見た方が具体的な計画を出すことができると思う。

資料3の16ページに市民意向調査結果から現状の満足度と今後の重要度が整理されている。「16：子育て支援の充実」は現状維持となっているが、子育て世代に魅力的なまちをつくることも重要である。基本構想の中でこのデータのみ流れが異なるような気がした。

また、17ページの表中に、「強みによる機会の活用」として「◆国土形成～」とあるが、文章がわかりづらい表現となっている。この文章をもう少し丁寧にしてわかりやすくなるようにしてほしい。

(事 務 局) 16ページにつきましては、市民意向調査の結果でありますので、このままとさせていただき、施策としては“子育て支援”をキーワードにおいておりますので、基本計画では細かく見ていただければと思います。

17ページは、わかりやすい文章に修正したいと思います。

(委 員) 市民には総論や各論がわかりづらいものに思ってしまうかもしれないが、なかなか細かいことは書きづらくなっているのだと思う。しかし、分科会でも市民にとってわかりやすいものをと多々意見をいただいている。

基本構想は総論・各論になってくるが、具体的なところで江南市のビジョンのようなものをホームページ等で市民にわかる形で示せたら良い。

(委 員) 基本構想や基本計画は江南市の計画で最も上位に来るものであり、全体を網羅したものとすると市民にはわかりづらい。江南市全体的話としては理解できても、自分の住んでいるまちに置き換えたときにわかりづらくなってしまっている。

市民にわかりやすく伝える補助的なものがあれば、市民にとっても身近な基本構想になるのではないか。

(委 員) 基本構想は、及第点に達しているが核心がなく、何を示しているのかがわからない。

布袋の病院跡地に入居された若い方に、なぜ江南に来たかと尋ねると、地震に強く、また、布袋はイベントや市民協働の場が多くて楽しそうだから子育てに適していると思って来たとおっしゃっていた。しかし、保育園は、3歳未満は二次募集がなく、年中は満杯だという。一方、宮田の方には空き教室があるといった現状もある。

若者の定住を促進し、子育て環境をよくするためには、江南市は何をしたらよいか、人口を増やすためには何をすればよいかといった点について、基本構想にも明確に打ち出すべきではないか。

(委 員) 私は、江南市国際交流協会に携わり、まちなかの空き家を借りて拠点としている。先日、県の国際交流協会から行政と民間ボランティアがどのように提携して取り組んでいるかということを発表してほしいと依頼され、民間ボランティアの立場として、やりたい活動ができるよう、行政と協働していかなければならないという点について発表した。他の発表を聞いていても、行政が“やりなさい”ということではなく、市民が“やりたい”と思うことを行政が支援することが大切であると感じた。

(会 長) 私は「市民が公共になる」「民間が公共になる」という言葉を使っているが、そういったところを目指してほしい。

- (委員) 基本構想は、きれいな言葉がならんでいるように思えるが、商工業者としては時間軸もあると良い。計画倒れせずに実現できるよう、行政にお願いしたい。  
それから、平成 27 年から人口が減少しているが、人口が減ったから魅力が低下したのか、それとも魅力が低下したから人口が減ったのか、もう少し分析する必要があるのではないかと感じた。  
子育て支援の話があったが、その子たちが大人になったとき、江南市に定住したいと思えるかを考えていくことが重要だと考えている。
- (委員) 基本構想の部分はこれでよいと思うが、資料 3 の 15 ページに 77% が「住みやすい」と回答しているが、12 ページの人口動向では人口の伸び率はあまり良くない。外的要因でしょうがないことなのか、どうにかして防げることなのか、もう少し考えていく必要がある。
- (委員) 戦略計画のまちづくり会議が審議会と並行して開催されているが、市民協働という話もあるので、ぜひともまちづくり会議での様々なご意見を審議会の場にフィードバックしてほしい。まちづくり会議は今度どのようなかたちで開催されていくのかについても、我々は知っておく必要があるのではないと思う。
- (事務局) 戦略計画のまちづくり会議からいただいた意見と、第 6 次総合計画の策定のために開催しております市民会議の開催経過について、後日お示ししたいと思います。
- (委員) 土地利用について、なぜ宅地が増えたのか、それらの用途は何になっているのかなど、きちんと分析することで対応すべきところがわかってくる。  
基本計画を作る際には、細かい分析も必要となってくるので、イメージ程度のものは基本構想でも持っておいた方が良いのではないかと。
- (委員) 資料 3 の 25 ページに人口推計には、平成 39 年度の目標人口が 95,100 人とあるが、どういった方策によって増やそうとしているのか。  
また、14 ページに財政とあるが、人口が今後減少していくことによって、さらに税収が減り、手の打ちようがなくなるのではないかと。  
駅前が非常に寂しく感じるが、人口や魅力をどう維持していくのか。納税額の高い方に住んでもらうという視点も重要だと思うが、そのあたりを明らかにしてほしい。  
収支は厳しいようであるが、財政状況は悪くないようなので、一宮市の合併特例債などのように公債を発行し、一旦は負債をもって市を活性化させるといった発想も必要なのではないかと思う。そのあたりを明らかにして、より説得力のあるものにしていただきたい。
- (委員) 江南市をどのような素晴らしいまちにするかといった目的を考えると、及第点の資料ではないか。県内で江南市を知らない人が多いことにびっくりする。また、公共施設なども特徴があまり見られず、その辺りが残念に思うので、改善できるよう、力を入れていく必要がある。
- (委員) 江南市は、曼陀羅寺のような建築物や、歴史に残る人物など歴史資産を多く持っている。歴史を活かしたまちづくりができないか。市民が愛着を持つことで誇りが生まれるとともに、江南市の知名度が上がることによって転入者も増加するのではないかと。  
資料 3 の 17 ページに、「歴史資源」が強みだとあるが、基本構想の中でどこにあるのかわかりにくい。  
また、名古屋都心へのアクセスが良いことが強みとあるが、一方で 15 ページに「若い世代の定住意向が比較的低い」とあり、市外に転居したい理由としては「交通の利便性～充実度が低い」とある。つまり、市の考えている強みと、若い世代の考え方にずれが生じている可能性があるため確認してほしい。
- (委員) 資料 3 の 15、16 ページは統計学的に処理された数字か。クロス集計でみたときに矛盾するのではないかと。バックデータを提供してほしい。
- (会長) 本日は、市内の交通に関する話題が少なかった。最近の注目する話題として、大都市圏のバスの自動運転化や中山間地域における取組やカーシェアリング等が挙げられる。GPS の精度が上がってきており、10 年以内を実現できるよう国で取り組んでいるところである。  
本日は大変ご熱心にご議論いただきました。皆様から多くのご意見が出ましたが、資料

はよくできていると思います。具体的な計画を示す段階になったときに、市の方でどのくらいお考えになられるか期待しておりますし、その上でまた委員の皆様とご議論していきたいと思います。

### (3) その他

(事務局) 次回以降の審議会日程についてお知らせいたします。

第3回 2月21日(火) 午後2時(第2委員会室)

第4回 3月21日(火) 午後2時(第2委員会室)

第5回 4月20日(木) 午後2時(第2委員会室)

第6回 5月23日(火) 午後2時(第2委員会室)

第3回、第4回審議会については、既に委員の皆様宛に開催通知をお送りさせていただいています。会議資料につきましては、開催1週間前にお送りさせていただく予定です。第5回、第6回審議会については、席上に開催通知を配付させていただいておりますので、よろしく願いいたします。

本日は長時間に渡りご審議いただき、ありがとうございました。

以上